

# 平成 24 年度 第 1 回通常総会議案書

## 目 次

・事業計画案

・予 算 案



社団法人 兵庫県臨床検査技師会

# 平成 24 年度 第 1 回通常総会

1. 日 時 平成 24 年 3 月 25 日 (日) 午前 10 時～11 時 30 分

2. 場 所 生田文化会館 2 階 大ホール

## 3. 次 第

1. 開会の辞

1. 議長選出

1. 議長挨拶

1. 書記任命

1. 会長挨拶

1. 総会の資格審査

1. 議案審議

(1) 議事録署名人に関する件

(2) 役員候補者及び監事選出

(3) 第 1 号議案

平成 24 年度事業計画案

(4) 第 2 号議案

平成 24 年度予算案

(5) その他

1. 書記解任

1. 議長解任

1. 閉会の辞

## 【第1号議案】

### 平成24年度事業計画（案）

#### □ 総 括 □

当会は、今年で創立60年を迎える。会の前身団体である兵庫県衛生検査技術者協会が昭和27年3月15日に創設、諸先輩方が築き上げられた後、昭和55年7月に「社団法人」を取得した。昨年は社団法人設立30周年を迎え、その間には成熟した医療団体の一員として確固たる位置を築き、会60年間の歴史を創り上げてきた先人に深く感謝を申し上げる。我々現執行部は、諸先輩方の熱意と志を受け継ぎ、社団法人の理念である「公益」「学術」「職能」を前面に事業推進してきた。おりしも、国の法人改革によって法人のあり方そのものが変わり、会の法人移行が求められてきた。その移行認定手続きが開始されて、2年余りの事務作業を終えて平成24年1月に移行認定の申請を行った。

平成24年度は、その理念を基軸に新しい「公益社団法人」として後世に引き継ぐ団体として公益、共益等事業を推進する。

公益社団法人は、会が目的としている県民の健康増進、疾病予防等の公益性の高い事業展開を心掛けなければならない。そのためには経理的基礎、技術・専門的能力を持つ人材や環境などを兼ね備え、事業経費比率を公益目的事業に50%以上拠出する必要がある。

また、会が目標とすることは、医療人の一員として社会との信頼関係を高め、職能人としての安定と安心できる環境の整備と人材の育成を図る。そして、臨床検査技師として社会に貢献できるようにするための事業展開を目指す。そのことを踏まえた技師会の組織体系と事業推進、予算配分を行った平成24年度の事業計画及び予算を提示する。

組織体系は、役員定数を削減し、20名以内の理事及び2名以内の監事で行う。4局9部制で構成される内訳については次のとおりである。

事務局：総務部、経理部

事業推進局：公益事業部、精度管理事業部、学術部

組織活動局：組織部、広報部

渉外事業局：渉外部、職業紹介部

●事務局は、総務部と経理部からなり、公益社団法人としての事務的作業とそれに伴う法人会計について作成し、執行する体制をとる。

●事業推進は公益事業の3事業を中心に行う。

1. 公衆衛生の向上及び臨床検査に関する普及啓発を行う。
2. 臨床検査の標準化調査及び精度管理指導を行う。
3. 学術及び技術の振興を行う。
4. その他公共福祉に関係する事項について調査、

研究を行う。

- 組織活動は共益事業での2事業を中心に行う。
  1. 組織部は会員の交流、連携強化のために組織活動を行う。
  2. 広報部は県民・会員への情報提供を図り、活動の推進を促す。ホームページを県民への公開講座や検査情報などを提供する媒体として活用する。会員、他医療職種への研修会案内等により医療活動の活性化を図る。
- 渉外事業局は職能団体として臨床検査技師の基盤整備を行う。
  1. 渉外部は兵庫県会員の運営基盤の充実と福利厚生事業の推進など会員の共益に関わる事業の推進を図る。
  2. 職業紹介部は事業を展開するための事前調査及び事業開設のための環境整備を図る。
- 行政、関係団体、各政党と共に協調・連携強化を図り、臨床検査技師の制度改革や待遇の改善などの現状調査の実施を行う。また、医療職間の業務に付随する事項の洗い直しなどを行い、医療の安全性をより高めるための運動や患者を支える医療を支援する臨床検査技師を目指した行動をとる。
- 日臨技関係については、会長選挙の結果を見て判断したい。近臨技関係についても日臨技の体制によって異なるためにその方向性については、決算総会（6月）で示したい。
- 会創立60周年、公益社団法人設立にあたっての記念事業を5月に挙げる。

会員、賛助会員、並びに兵庫県をはじめ、県医師会、各医療関係団体には、平素よりご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

#### □ 事務局関係 □

#### ■ 事務局

公益社団法人初年度であるが、事務手続きを円滑に進める。また各部局との連携強化を図り、公益・共益のバランスが取れた事業展開を支援する。

1. 公益社団法人移行、兵庫県臨床検査技師会設立60周年記念事業を行う。
2. 行政・関連団体との対応  
関係省庁からの情報は「HYOGO ニュース」や兵臨技ホームページ、メールを通じて速やかに会員へ広報する。行政から依頼された委員委嘱については積極的に対応する。（兵庫県及び各市への精度管理専門委員の派遣、健康ひょうご21県民運動推進員の派遣等）また、兵庫県医師会臨床検査データ標準化協議会へ委員を派遣し、当会精度管理調査事業との連携を図り臨床検査データの標準化を押し進める。日臨技をはじめ、

近臨技、各都道府県技師会の情報や、他団体の情報も集約し適宜会員へ広報する。さらに叙勲候補者、県功労賞などの推薦を行う。

### 3. 総会の開催

定款に基づき総会を年間2回開催する。

### 4. 理事会・常務理事会の開催

定例会議は原則、以下の要領で開催する。

理事会：偶数月の土曜日

常務理事会：奇数月の土曜日

## ■ 総務部

1. 会務の処理を速やかに行うと共に、資料の電子化を進め、コスト削減・業務の効率化を図る。
2. 会員管理はシステム化によって適切に管理を行い、個人情報保護法に基づいたセキュリティ対策を講じる。
3. 行事予定表の効率的な運用を行う。
4. 研修センターのより効率的な利用を調整する。

## ■ 経理部

予算執行・財務管理は厳格に行い、事業運営を円滑に推進する。詳細は第2号議案 平成24年度予算案に記載する。

## □ 事業推進局関係 □

## ■ 事業推進局

事業推進局は、学術（学術部）、精度管理（精度管理事業部）、衛生思想向上（公益事業部）を3本柱として、「公益性」を主眼にした事業展開を目指す。また、部局間および他団体との連携を強化し、合同事業が展開できる体制作りに取り組む（詳細は各部事業計画案参照）。

## ■ 学術部

学術活動は公益法人の柱であり、会員の資質向上に必要不可欠である。昨年同様、今年度も勢力的に活動する。公益法人移行に伴い、研修会の形態を会員対象、他職種出席可能、一般市民対象とする。以前から開催されている病理研究班の検鏡研修や、各部門での実習を伴う研修会を企画し、会員のスキルアップにつながるよう今後も継続し充実させていく予定である。

本年度から近畿臨床検査技師会の組織変更があるが、近畿主催の研修会は従来通り開催する。兵庫県医学検査学会は阪神地区研究発表会と合同開催となる。

## 開催予定行事

1. 各部門研修会
2. 学術部会
3. 兵庫県医学検査学会
4. 就労支援事業（組織部合同開催）
5. 近畿医学検査学会支援
6. 日本医学検査学会支援

## 【生物化学分析部門】

### 《臨床化学検査》

近年の医療経済至上主義により、臨床検査領域での費用対効果を追求した結果、検体検査部門における業務の効率化は甚だしい状況である。このような状況下では、限られた時間で、新たな技術や知識を習得するには効果的な学習が必要となる。

臨床化学検査部門では、効率的で時流にマッチした、会員のスキルアップになるような研修会を企画していく。

1. 臨床化学検査の実践的方法
2. 「臨床検査値標準化」の知識及び技術の伝達
3. 最新の臨床化学情報
4. 臨床との関連を深める内容
5. チーム医療に役立つ内容

### 《免疫血清検査》

今年度の活動は、昨年引き続き免疫学的検査を中心に研修会を開催するとともに、免疫学的検査の基礎知識である抗原抗体反応に関する研修会、免疫学的検査に見られる非特異反応に関する研修会を開催する。

次世代の免疫血清分野を担う技師の育成を目指し、継続的に以下の研修会を開催する。

1. 免疫学的検査の基礎知識を習得するための研修会
2. 非特異反応を発見する眼力と回避策を習得するための研修会
3. 最新の話題にスポットをあてた研修会

## 【生理機能検査部門】

### 《生理検査》

生理検査分野は広範囲であるため、細かな研修会を開催する。就労支援事業超音波検査実技講習会は心臓領域を加えて組織部と合同開催する。

1. 腹部超音波検査（実技講習会を含む）
2. 心臓・血管超音波検査（実技講習会を含む）
3. トピック的な研修会
4. その他、生理検査に関すること

## 【感染制御部門】

### 《微生物検査》

微生物検査研修会は基礎知識と専門知識の両面の向上を計る目的で検査技術の研修会をシリーズ化して行なってきた。また、班員による「微生物検査の裏技」の披露や、感染症における最新の知見を得るため、精鋭した講師陣を招聘した。本年もそれらを継続し、またより臨床に密接した微生物検査が行えるように考え以下の研修会を開催する。

1. 新人を対象とした基礎実習の研修会（定例化）。
2. 基礎知識を充実させるための定期研修会（講義および実習）の開催。
  - a) 卒後教育を含めた技術講座
  - b) 情報ネットワークの充実
  - c) 専門技術の実習指導
3. 症例から学ぶ感染症検査の検討。（臨床医との協同を中心に）
4. 薬剤耐性菌に関する情報の共有。
5. 医療関連感染対策に必要な知識の向上と新しい知見の取得。
6. 県内の感染症情報ネットワークの構築と活用。
7. 微生物検査室の無い検査室での対応と教育。
8. 認定臨床微生物検査技師の輩出とスキルアップを目的とする教育の充実。

## 【総合管理部門】

### 《管理運営》

管理運営研究班では、昨年に続き、臨床検査技師の人材育成に主眼を置き新人教育、中堅、リーダーと大きく3つのカテゴリーに育成度を分けそれぞれの人材育成について研修会を行う。

特に新人教育については標準プログラムの作成を目指す。講師によるレクチャー形式の研修会よりも問題意識を持った会員が討論形式で行って兵臨技独自の人材育成の場となるようにしたい。まずは、各施設の役職のある方々と問題点や実際例などを討論して意識を高めていくような方向に進めていきたい。また、英語鍛錬の一環として国際学会発表や英語論文作成に役立つものを開催する。

1. 人材育成について考える  
（各施設の問題点提示、事例報告など）討論会形式
2. 英語鍛錬教室（英会話を含む）

## 【移植検査部門】

### 《輸血検査》

輸血検査研修会では、基本的な事項だけでなく、実際の検査における問題解決、各種指針・ガイドラインの改正を踏まえた管理体制、輸血過誤防止対策、

輸血副作用対策、細胞治療（再生医療）の講演を中心に情報交換のできる研修会を開催していく。

また、輸血検査の実技講習会は、初中級者を対象としているが、日常の基本的な検査法から、さらに一歩踏み込んだ検査内容となるような実際の症例検討も行えるよう企画していく。

- 〔兵庫県〕 1. 輸血検査研修会（講演会） 6回  
2. 輸血検査研修会  
（実技講習会） 1回
- 〔日臨技〕 3. 日臨技地区輸血研修会  
（実技講習会） 1回  
（平成24年度は奈良県が担当）

## 【形態検査部門】

### 《血液検査》

血液形態学的検査には熟練を要した観察眼を要し、幅広い情報と視野及び経験が絶対的に必要である。そのためにもまず、新人の育成と、経験者にも有用な情報の提供や新しい知見の提供を目的とした講習を行う。さらに他分野との関連性のある基礎知識の習得や情報交換を持って質の向上を図る。

また、さらなるステップアップを目的として、認定血液検査技師の育成を支援していきたいと考える。よって、以下のとおり事業計画案を提案する。

1. 新人を対象とした血液形態学基礎講習
2. 経験者を対象とした血液形態学実習・講座
3. 基礎知識の充実、施設間の技術的・学術的統一を目的とした研修会
4. 情報交換、新しい知見の習得を目的とした症例検討会（シニアコース奇数月に実施予定）
5. 血液検査や凝固検査に関する精度管理事業
6. 最新の白血病分類や止血・血栓についての知識の向上を図る講演会
7. 病理・遺伝子・輸血など他分野との合同研修

### 《病理・細胞検査》

病理・細胞検査では、高度な新しい技術の習得と応用はもちろんのこと、病理組織像、病態像、特徴的な細胞像などの正確な知識を幅広く理解することが重要であると考え、そのための研修会を行っていくことを基本的方針としている。

具体的には、病理・細胞検査のルーチン業務に携わる検査技師や細胞検査士を志す検査技師の基礎知識習得を目的とした細胞診の講習会、組織標本に関わる講習会、神戸地区以外に西播地区・丹但地区での講習会も行う。

1. 細胞検査定期講習会（細胞診ジュニアコース：12回）
2. 病理検査定期講習会（組織標本作成：1回）
3. 細胞診スライドカンファレンス（細胞検査フォ

トサーベイ報告会を含む：1回)

4. 病理技術講習会(病理サーベイ報告会を含む：1回)
5. 病理・細胞検査特別講習会(1回)
6. 他に西播地区、丹但地区にて計2回ほど開催予定
7. ホームページ利用による研修会等の情報提供

#### 《一般検査》

新たな専門技術・知識の向上とEBMに根ざした基礎技術の習得と図り、一般検査全般の精度保証に貢献するため以下の研修会を行う。研修会の開催以外に、尿沈渣検査の基礎講座および、寄生虫卵検査など顕微鏡学的検査に関する調査・研究を行い、その情報を公開する。

1. 尿検査研修会(ジュニアコース) 年3回  
尿沈渣検査の実務経験2年未満の会員対象の短期集中講座
2. 尿検査研修会(ジュニアコース) 集中学習講座 年2回  
上記内容の集中学習講座、阪神地区および西播地区2か所で開催
3. 基礎研修会(初級～中級者向け) 年2回  
新人の卒後教育を念頭に置いた基礎講座現状と問題点の整理、最新のトピックスと展望について
4. 一般検査セミナー(西播地区開催予定)  
「みんなで学ぼう 一般検査」をテーマに4～5演題の集中講座
5. 基礎技術の向上を目的とした実習
6. その他、学術的調査・研究活動

#### 【チーム医療部門】

##### 《チーム医療》

“チーム医療”という領域に保険点数までつくような時代になり、臨床検査技師として検査に関する知識と技術を発揮できる場所であるチーム医療への参画の重要性がますます高まっている。チーム医療部門では、積極的に参画できるように、知識や技術、最新情報を提供し、実践に即した研修会を企画する。昨年同様他の研究班との合同研修会や他職種(薬剤師、管理栄養士、放射線技師など)の講師を招いての研修会を開催する。日本臨床検査技師会関西支部医学検査学会と同時開催しているチーム医療実践セミナーへの参加活動も継続する。

1. 糖尿病に関する基礎知識習得のための研修会
2. NST(検査・栄養・輸液)に関する基礎知識習得のための研修会
3. 糖尿病療養指導士やNST専門療法士の試験対策研修会
4. 他職種の講師を招いての知識向上のための研修

会

5. 他の研究班との合同研修会の開催(臨床化学・一般検査・微生物研究班など)

#### ■ 精度管理事業部

平成23年度に引き続き、兵庫県及び県医師会と連携して、県下の施設の検査結果の正確性・精度の調査を通して、県下の施設の正確度・精度の向上を図ると共にデータ乖離施設においては、指導を行う。

#### ■ 公益事業部

平成22年度から公益事業部として発足し、県民を対象とした公衆衛生思想並びに臨床検査の普及啓発活動を目的としている。平成23年度は、日臨技公益委託事業として「乳がん検診促進キャンペーン」や「HIV・STI 予防啓発キャンペーン」等の市民公開講座を開催した。臨床検査技師だけでなく医師からも検診や予防の重要性について講演して頂いた。

今年度も、兵庫県、神戸市や各団体の後援を得て、「子宮がん」、「乳がん」、「HIV」に関する講演会等の開催、糖尿病などの生活習慣病予防に関する公益事業を展開し、より健康的な生活の維持に繋がるような企画を実施する。

#### □ 組織活動局関係 □

#### ■ 組織活動局

組織部においては、定年退職者や離職者に対する就労支援および人材育成を視野に入れた事業を展開する。地区活動については県下5行政地区において各種情報の共有化を図り、適切な組織活動を進めていく。また、広報部では当会の活動や事業内容を会員に知らせ、一般市民の方々には臨床検査についての情報を発信し啓発活動を行う。

今年度は事務局、事業推進局、渉外事業局との連携を更に強化して公益社団法人に相応しい事業を推進していく。

#### ■ 組織部

組織部では、地区活動を通じ各種情報の共有化を図り、より多くの会員の意見が技師会活動に反映されるように以下の行事を行う。

また、就労支援活動として実施している超音波研修会の充実を図り人材育成に努める。

- ・ 4 地区施設責任者連絡者会議
- ・ 第33回丹但地区研修会 6月
- ・ 第6回丹但地区学術組織合同研修会 11月
- ・ 西播地区研修会 7月8日(日)
- ・ 西播地区グループ研修会 年5回

- ・第22回東播地区研修会 3月2日(土)
- ・東播地区ナイトセミナー 年2回 8月31日(金)、11月30日(金)
- ・新入会員研修会 7月
- ・施設交流会(新入会員歓迎会)7月
- ・第4回就労支援超音波研修会

## ■ 広報部

広報部は、下記の各種広報媒体の特性を活かした情報発信と効果的・効率的な啓発活動を推進する。

機関紙『会報 HYOGO JOURNAL』『HYOGO ニュース』は会員相互交流および活動の場を充実するための情報提供を行う。また臨床検査情報センターはホームページを通じて、医療および検査技術の向上に寄与するために、学術・技師会活動、賛助会員施設や機器・試薬の紹介などの情報を「より速く」、「より分かりやすく」提供する。さらに「アウトリーチ活動」を積極的かつ機動的に行うことによって、当会の有意義な情報を発信するだけでなく、各部局と協働しながら、市民公開講座や研修会、医療施設などの現場へ出向き、取材活動をとおして会員に有用な情報などを収集するよう努める。

1. 「会報 HYOGO JOURNAL」について
  - ・年1回、年頭所感、前年度の各部局活動報告等をまとめ、「新春号」として1月に発刊する。
  - ・県医学検査学会抄録集と学術投稿を「学術特集号」として6月ごろに発行を予定している。
2. 「HYOGO ニュース」について
  - ・各部局の事業計画・報告、前月・今後の活動内容、研修会お知らせ、日臨技・近臨技のお知らせや報告、求人情報等をコンパクトに編集し発刊する。
  - ・積極的に取材活動を行い、会員に有用な情報などを収集する。
3. 臨床検査情報センターは、ホームページの充実と高度医療情報の発信を図る。
4. ホームページについて
  - ・全会員が最新の活動情報を効果的に共有化できるようにするとともに、一般市民の方々にも技師会の活動、刻々と変化する医療や臨床検査を知っていただくための情報提供を担い、迅速な更新を行う。

## □ 渉外事業局関係 □

## ■ 渉外事業局

渉外事業局では兵庫県会員の運用を平成23年度より開始した。現在の会員数は2,048名(平成23年12月現在)で昨年11月に実施した就労実態調査より、回答施設198施設の中に550名を越す非会員数を確認する事ができた。今年度は更に会員制度の充実を

はかり会員数の増加をめざす。

無料職業紹介所を公益認定後に開設する。医療現場での臨床検査技師の産休・育休等の代替要員の人材確保が困難となっている。今後、女性臨床検査技師の割合が増加している現状を鑑みると、様々な形態で就労できる環境を調査整備し、高度な専門性が担保された臨床検査技師が活躍できる場を提供できる体制を構築する。

県内の臨床検査技師の就労実態調査に続き、各種(給与、待遇等について)実態調査を継続的に実施する。

## ■ 渉外部

1. 兵庫県内の臨床検査技師に関する就労実態調査を継続的に行う。
2. 就労実態調査より得られた情報より、多様化する会員の職場環境やニーズを把握する。
3. 無料職業紹介所を開設し、ワークライフバランス等を考慮した就労支援を行う。
4. 医療の質のさらなる向上を目指し、優秀な人材の確保・定着が出来るような研修会を企画する。

## ■ 職業紹介部

職業紹介部は、臨床検査技師の求人、求職に係る職能サービスの一環として、新たな部門として設置する。職業紹介は、会の日常的運営の中でも会員・施設から要望されている事柄の1つでもある。

今年度は、職業紹介に関する事業の設置に向けた調査及び許認可申請等に係る作業について整備を図る。

求職者のニーズは正職員及び嘱託、パート、アルバイト等の雇用条件や施設の求人状況が異なる事など多種多様な要件がある。マッチングするためには、それらの要件を的確に把握し、それらの条件に合った臨床検査技師(会員・非会員の区別なく)や施設を紹介し、多くの臨床検査技師が安心、安定した職場と施設に適した人材を提供できるようにしたい。

## 【第2号議案】

### 平成24年度予算（案）

（平成24年4月1日から平成25年3月31日）

#### 1. 平成24年度予算編成にあたって

平成24年度予算は平成23年度実績、各部局より提出された平成24年度事業計画案及び予算案を基に編成した。

基本的な概念として、「経費削減」を念頭に置き、会員の受益者負担をお願いしつつ、各部局の事業遂行が円滑に行えるよう考慮した。

#### 2. 収入の概要

会費収入は、決算見込みから正会員2,000名、賛助会員60口分とした。事業収入には、各部局の事業計画からそれぞれに収入見込みを概算した。

日臨技の平成24年度助成金、委託費の縮減に伴い、日臨技からの助成金、受託収入を縮減した。

公益目的事業は日臨技共催事業として助成金を計上し、企業からの寄附金を計上した。

#### 3. 支出の概要

本年度の支出配分は、事業計画案に沿った概算要求と昨年度実績から考慮した。総予算に占める公益目的事業費は55.8%、共益目的事業費は33.6%、管理費は10.6%とした。

事務職員人件費、福利厚生費や事務所及び研修センターの賃借料、消耗品費、事務経費等の共有する経費は、各部局に按分した。

#### 4. 各部局の予算概要

1) 「衛生思想向上事業費」においては、エイズ予防啓発事業、がん検診促進運動、生活習慣病などの県民の健康増進、疾病予防などの公益目的事業の推進、日臨技や他府県技師会、関係各団体との情報交換・情報収集活動が円滑に出来るような公益予算支出とした。

2) 「検査精度管理事業費」においては、兵庫県、県医師会と協力しつつ、精度管理事業を実施、調査報告会を含む研修会等の開催を企画するための公益予算支出とした。

3) 「学術事業費」においては、会員の資質向上と他医療職参加型の研修会の実施等を行い、受益者に対して参加費としての負担をお願いしつつ、部門別、学術研究班を中心に活動が円滑に推進できるような公益予算支出とした。また、地域における各術研修会の開催や他職種との連携した研修会などの開催に係る経費も計上している。

4) 「会員資質向上事業費」においては、施設連絡者会議・地区研修会などの組織の連携強化を図る事業を円滑に推進できるような配分とした。昨年同様、学術部と組織部合同で行う人材育成・就労支援事業を含む予算とした。

5) 「広報事業費」として毎月発行の『HYOGO ニュース』、年間1回の『会報 HYOGO JOURNAL』、情報センターの活動、ホームページの充実を図るために必要な予算とした。

6) 管理費は、総会・理事会等の組織運営に関わる管理費と、事務関係経費が含まれる法人管理費を計上した。管理費の支出抑制を目指し、より一層の効率的な管理運営を進めて、減額に努めていきたい。



平成24年度 社団法人兵庫県臨床検査技師会

予算書 (案)

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(収入の部)

(単位:円 △は減額)

勘定科目		24年度予算	23年度予算額	増 減	備 考
大科目	中科目				
1.	会 費 収 入	13,000,000	13,500,000	△ 500,000	
	正 会 員 会 費	10,000,000	10,500,000	△ 500,000	2000人
	賛 助 会 員 会 費	3,000,000	3,000,000	0	60口
2.	事 業 収 入	9,195,000	8,095,000	1,100,000	
	衛 生 思 想 向 上 事 業	30,000	30,000	0	
	精 度 管 理 事 業	2,700,000	2,700,000	0	精度管理調査事業
	学 術 事 業	2,700,000	2,600,000	100,000	医学検査学会、研修会参加費
	会 員 資 質 向 上 事 業	1,400,000	1,400,000	0	地区研修会参加費
	広 報 事 業	1,365,000	1,365,000	0	会報、HYOGOニュース、バナー広告等
	記 念 事 業	1,000,000	0	1,000,000	24年度記念式典・祝賀会
3.	受 託 収 入	1,200,000	2,790,210	△ 1,590,210	
	日 臨 技 受 託 収 入	400,000	1,174,150	△ 774,150	
	精 度 管 理 事 業 受 託 収 入	800,000	1,616,060	△ 816,060	
4.	助 成 金 収 入	1,000,000	878,850	121,150	
	日 臨 技 助 成 金	1,000,000	878,850	121,150	
5.	寄 附	300,000	1,000,000	△ 700,000	
	寄 附 金	300,000	1,000,000	△ 700,000	
6.	雑 収 入	50,000	559,760	△ 509,760	
	受 取 利 息	20,000	20,000	0	
	雑 収 入	30,000	539,760	△ 509,760	研修センター賃借料
当 期 収 入 合 計 (A)		24,745,000	26,823,820	△ 2,078,820	
前 年 度 繰 越 金		0	290,144	△ 290,144	H23年度予算案より
収 入 合 計 (B)		24,745,000	27,113,964	△ 2,368,964	

## (支出の部1.)

(単位:円 △は減額)

勘定科目		24年度予算額	23年度予算額	増 減	備 考
大科目	中科目				
1.	公益事業費	14,932,000	15,120,500	△ 188,500	
	給 料 手 当 費	1,300,000	1,260,000	40,000	
	臨 時 雇 賃 金	1,400,000	1,320,000	80,000	
	福 利 厚 生 費	300,000	300,000	0	
	会 議 費	1,240,000	800,000	440,000	
	旅 費 交 通 費	1,330,000	1,625,000	△ 295,000	
	通 信 運 搬 費	400,000	600,000	△ 200,000	
	什 器 備 品 費	200,000	280,000	△ 80,000	
	消 耗 品 費	2,600,000	2,720,000	△ 120,000	
	修 繕 費	60,000	60,000	0	
	筆 耕 印 刷 費	800,000	1,000,000	△ 200,000	
	賃 借 料	3,457,000	3,250,000	207,000	
	水 光 熱 費	225,000	225,000	0	
	緒 会 費	80,000	35,500	44,500	
	図 書 費	0	0	0	
	広 報 費	200,000	240,000	△ 40,000	
	諸 謝 金	1,200,000	1,200,000	0	
	保 險 料	20,000	20,000	0	
	保 守 料	110,000	175,000	△ 65,000	
	負 担 金	0	0	0	
	災 害 支 援 金	0	0	0	
	雑 費	10,000	10,000	0	

(支出の部2.)

(単位:円 △は減額)

勘定科目		24年度予算額	23年度予算額	増 減	備 考
大科目	中科目				
2. 共益事業費		7,123,000	9,449,500	△ 2,326,500	
	給 料 手 当 費	600,000	630,000	△ 30,000	
	臨 時 雇 賃 金	600,000	770,000	△ 170,000	
	福 利 厚 生 費	130,000	150,000	△ 20,000	
	会 議 費	350,000	480,000	△ 130,000	
	旅 費 交 通 費	350,000	500,000	△ 150,000	
	通 信 運 搬 費	1,000,000	825,000	175,000	
	什 器 備 品 費	50,000	80,000	△ 30,000	
	消 耗 品 費	300,000	320,000	△ 20,000	
	修 繕 費	30,000	30,000	0	
	筆 耕 印 刷 費	1,500,000	2,800,000	△ 1,300,000	
	賃 借 料	903,000	1,250,000	△ 347,000	
	水 光 熱 費	90,000	90,000	0	
	調 査 費	30,000	50,000	△ 20,000	
	緒 会 費	680,000	674,500	5,500	
	函 書 費	0	240,000	△ 240,000	
	渉 外 費	30,000	50,000	△ 20,000	
	諸 謝 金	300,000	300,000	0	
	保 険 料	0	0	0	
	表 彰 制 度 運 営 費	150,000	150,000	0	
	保 守 料	20,000	50,000	△ 30,000	
	負 担 金	0	0	0	
	災 害 支 援 金	0	0	0	
	雑 費	10,000	10,000	0	

## (支出の部3)

(単位:円 △は減額)

勘定科目	24年度予算額	23年度予算額	増 減	備 考
大科目 中科目				
1. 公益事業費	14,932,000	15,120,500	△ 188,500	
2. 共益事業費	7,123,000	9,449,500	△ 2,326,500	
3. 管 理 費	2,690,000	2,665,000	25,000	
給料手当費	200,000	210,000	△ 10,000	
臨時雇賃金	200,000	110,000	90,000	
福利厚生費	50,000	50,000	0	
会議費	60,000	320,000	△ 260,000	
旅費交通費	500,000	375,000	125,000	
通信運搬費	200,000	75,000	125,000	
什器備品費	50,000	40,000	10,000	
消耗品費	100,000	160,000	△ 60,000	
修繕費	10,000	10,000	0	
筆耕印刷費	200,000	200,000	0	
賃借料	500,000	500,000	0	
委託費	300,000	300,000	0	
租税公課	25,000	25,000	0	
慶弔費	70,000	50,000	20,000	
水光熱費	135,000	135,000	0	
図書費	10,000	10,000	0	
広報費	50,000	60,000	△ 10,000	
保険料	0		0	
保守料	20,000	25,000	△ 5,000	
雑費	10,000	10,000	0	
4. 特定預金支出	0	15,000	△ 15,000	
研修センター維持積立金支出	0	15,000	△ 15,000	
5. 予備費	0	103,964	△ 103,964	
予備費支出	0	103,964	△ 103,964	
当期支出合計 (C)	24,745,000	27,353,964	△ 2,608,964	
当期収支差額 (A) - (C)	0	△ 530,144	530,144	
次期繰越金 (B) - (C)	0	△ 240,000	240,000	